

7月

カトリック麹町教会

MAGIS

Ignatius Soo

マジス = 「より、もっと、さらに」



イグナチオ年

2021年度 教会テーマ

困難の中で、イエスとともに希望の扉を開いていこう
祈り、つながり、協働する 2030年に向けて一歩ずつ

聖イグナチオとわたし

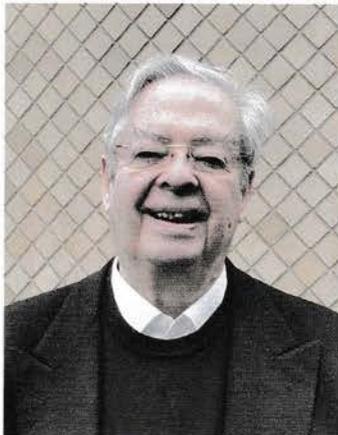
協力司祭 ハビエル・ガラルダ

母の指導を受け

私は子どものときに、聖イグナチオに出会いました。イグナチオの生まれたロヨラに近い村で夏休みを楽しんでいて、二十何人かのおもしろい友だちとひっきりなしに遊んでいました。

ある日、母が「明日、ロヨラに行きましょう」と言いました。私は「へー！うそ?」と言って、きつぱりと断りましたが、「遊んばかりいないで、たまには祈りなさい」と、母の厳しい指導を受け、むだな抵抗をやめておとなしくロヨラにまいりました。

ロヨラ城で「回心の部屋」を見ました。その部屋で、けがを癒していたイグナチオは聖人たちの本を読み、「聖ドミニコにも、聖フランシスコにも負けてたまるか」



15歳でなんとなく感じ

中高生向けのCLC（カトリック信徒共同体）に属していた私は、15歳になってイエス会の黙想会に参加しました。私の行く道はイエス会だと、なんとなく感じました。

入会するために、家で許可をお願いしましたが、父がただ一つ心配した問題がありました。「イエス会に、大食いのおまえを食べさせるだけ予算があるのか」という心配でした。不安のわけは、息子の空腹よりも、イエス会の赤字のことでした。

私が修練院で2年生になった時、実家から電話がきました。受付の修道士（ブラザー）は、230名もいる大きな修練院で私を探しましたがうまくいきませんでした。勘のするどい母は、「恐れ入ります。ブラザーはお御堂で息子を探しているのでしょうか。違います。食堂を探

してみてくださいませんか」と提案しました。やはり、食堂におりました。珍しく、先の黙想会から2年後、つまり7年前に私はイエス会に入会させていたいただきました。修練院における1ヶ月間の黙想の時、聖イグナチオのように「永遠の王イエス」に従うと誓いました。

ザビエルハビエルの縁

さらに、イグナチオの友だったフランシスコ・ザビエル（スペイン語でハビエル）が日本に来たので、同じ「ハビエル」を名前にいただいた私も日本に行きたくなりました。しかも、私の親は明治時代に日本まで来ていました。生念気に、それで縁があると思います。日本行きを申し出たのです。おかげさまで、63年前から、楽しくおじやませせていただいております。

「4S」の祈り

イグナチオの黙想（霊操）に戻りますが、2週間目には「主をより深く知って、もっと愛して、より従う」という祈りがあります。数年前、わたしはその祈りを、勝手に「4S」でまとめてみました。

ローマ字のSから始まる日本語の4つの動詞です。キリストを「知る」「好きになる」「従う」「知らせる」。

この「4S」の祈りは生きる根本目的になっていきます。イグナチオは、深く愛していた母マリアに、「私をあなたの子（イエス）」と一緒に置いてください」と、絶え間なく願っていました。このお願いの祈りも大好きです。

み母マリアとイエスは、自分自身とすべてを神にゆだねました。そのように、すべてを捧げたイグナチオは、「あなたの愛と恵み（グラチア）をお与えください。それだけで満たされます」という祈りを作りました。この言葉も私の人生を支えています。

聖イグナチオは、イエスの忠実な騎士です。素朴な侍（サムライ）の気品が自然に内から出る聖人です。聖イグナチオを誇りに思っていますし、聖イグナチオの会に受け入れられて本当に感謝しております。

教会報 MAGIS 7月号

† 第1回年次活動報告会	2頁
† イグナチオ年特集	4頁
† 「オンライン入門講座」④	6頁
† 英語圏・スペイン語圏から	8頁